

指導計画を作成する前段階として、指導内容の系統性を把握するため、算数四領域、理科三領域に分けて各学年ごとの系統表を作成した。

③ 教材の精選・吟味

教材の精選では、基礎的・基本的なものについて児童がゆとりをもって取り組めるように次に配慮した。

ア 教材精選の手順の明確化

イ 教材精選の明確な観点の設定

ウ 教材の中心となる事項の明確化

④ 指導計画の作成(図2)

ゆとりある時間の配当に努めた。

ア 単元の始めに十分な調査と学習の見通しのできる時間の確保

イ 単元の終わりに、強化のための練習や下位児童に対する追指導ができる時間的な配慮

⑤ 指導計画に対する反省・問題点

ア ゆとりある展開と時間について

イ 児童の興味関心と教材について

ウ 適時性について

ニ 到達度状況など

① 学習指導法の工夫・改善

検討、吟味し改善された指導計画を

基盤として、一人一人に充実感や喜び、感動を与える指導を展開するため、次のような基本的態度で授業に取り組んできた。

それは、本校の教育課程の研究の基本方針である

「ゆとりある充実した学校生活を送るため、あらゆる場での問題の与え

図1 数と計算

	1 学 年	2 学 年
目 標	● 具体的な事象の取扱いを通して、数の概念や表し方について理解させるとともに、簡単な場合について加法及び減法が用いられるようにする。	● 数の概念や記数法についての理解を深める。加法、減法及び乗法を用いる場合について理解させるとともに、基礎的な計算ができるようにする。
内 容 A 数と計算	(1) ものの個数、順序などを数を用いて正しく表すことができるようにするとともに、数の概念について理解させる。 ア 対応などの操作によって、ものの個数を比べること。 イ 個数や順番を正しく数えたり表したりすること。 ウ 数の大小及び順序を知り、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。 エ 一つの数をほかの数の和や差としてみるなどほかの数と関係付けてみること。 オ 2位数の表し方についてその意味を知ること。 (2) 具体的な事象について、まとめて数えたり等分したりし、それを整理して表すことができるようにする。	(1) 数の概念や表し方についての理解を深めるとともに数を用いる能力を伸ばす。 ア 同じ大きさの集まりにまとめて数えたりすること。 イ 簡単な事柄を分類整理し、それを数を用いること。 ウ 4位数までについて、十進位取り記数法。

図2 指導計画の作成

指導計画の作成に際しては、単元のはじめに学習の見通しをもたせ、終わりには、強化のための練習や下位児童に対する追指導ができるように配慮した。

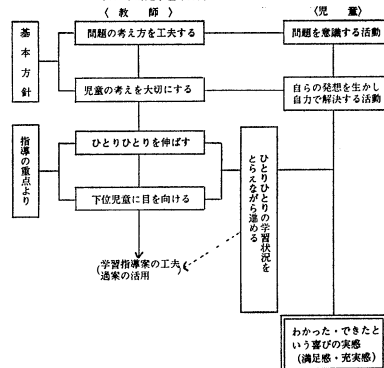
一算数指導計画例一
5年 「三角形と四角形」

時	総時数13時		
	1	2	
ね ら い	●学習の見通しをたてる。	●合同の意味を知り、おかれた位置に関する合同な図形を指摘できる。	
指 導 事 項	1. 事前テスト ※既習事項の確認 2. 学習の見通し	1. いろいろな観点での図形集め 2. 合同の意味の理解 3. 裏返しの位置にある図形についての合同の指摘 4. 合同な三角形の切りぬき	
準 備	●テスト用紙 ●コンパス ●分度器 ●定規 以下毎時間	●プリント ●画用紙 ●のり ●うす紙 ●OHP	
		12 13	
		●三角形と四角形についての学習をまとめることができる。	●事後テストを反省し、補充の問題を解くことができる。
		1. 事後テスト 2. 基本的事項のまとめ	1. 事後テストの反省 2. 事後テストの結果による追指導と練習強化
		●テスト用紙	

図3 授業の充実

「授業の取り組みへの基本的態度」

毎日の授業を、基本方針とのかかわりで進める。



方々を工夫し、児童の考え方を大切に
して指導を展開する。」「私はでき
ない」という子供をなくす！
という方針から、授業に対する基本
態度が生まれたものである(図3)
次に、指導法の工夫・改善について
実践の一端を紹介する。

① 毎日の授業は基本方針とのかかわ
りを明確にして進めた。

ア 前述の基本方針の「問題の与え
方の工夫」と、「児童の考え方を
大切に」という二つの視点か
らの授業展開

② 問題の与え方を工夫した。

ア 興味関心をもてる教材教具資料
の選定と、その提示の工夫
イ いろいろな角度から解決の仕方